



児童発達支援事業所における自己評価総括表

事業所名	そらいろチョコちしま	
保護者評価実施期間	2025年12月1日～2026年1月20日	
保護者評価有効回答数	対象者数 15	回答者数 15
従業者評価実施期間	2025年12月1日～2026年1月20日	
従業者評価有効回答数	対象者数 6	回答者数 6
事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日	

▶ 分析結果

	事業所の 強み だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による多角的なアセスメント	言語聴覚士が常勤しており、言語発達の課題を的確に分析できている	保育士や児童指導員など異なる背景を持つ職員との間で今以上にサポートし合える様に取り組みでいきます。
2	保護者への「寄り添い型」支援	面談や電話相談、日々の連絡帳を通じ、保護者の不安(就学や家庭での行動)に対し専門的かつ具体的な助言(支援)を行っています。	ITCツールの導入を活用して、リアルタイムでの情報共有や、忙しい保護者でも相談しやすい環境に取り組みで行きます。
3	児童の自己決定を促す支援(意思決定支援)	「選択肢」を提示することで、幼少期から「自分で選ぶ」意欲と自信を育てています。	児童が意思を決めるまで十分に待つ時間を確保し自分の決定がどうだったかを言語化・視覚化する習慣がつくように取り組みでいきます。

	事業所の 弱み だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレント・トレーニングの実施	保護者は日々の家事・育児・仕事で忙しい方も多く、ペアレント・トレーニングの保護者参加率が低いのが課題です。	「学び」より輪の中に入って一緒に悩みを共有できるように工夫して参加率を上げていけるよう取り組みでいきます。
2	地域とのネットワーク	他の児童発達支援・放課後等デイサービス・老人ホームとの交流を毎年行っていますが放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がもてない。	今後交流ができる機会を設けていくように取り組みで行きます。
3	幼稚園・保育園・相談支援所との密な連携	保育所等との連携が不足気味です。	保育所等との連携を積極的に行い、集団生活の場での適応をトータルでサポートできる体制が構築できるように取り組みでいきます。